

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400035		
法人名	医療保人NANOグループ		
事業所名	グループホームなずな		
所在地	長崎県雲仙市千々石町庚1297-1		
自己評価作成日	令和 3年 1月 28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の為、日中は併設の施設に看護師が居る。夜間は医療連携体制を訪問看護ステーションと結んでおり、又、母体の菜の花クリニックに24時間看護師が居るので医療面での緊急は、素早く対応できる。また、医師が毎日往診で来られる。併設でデイサービスがあるので利用者は閉じこもることなくのびのびと生活できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年1月に開所した当ホームは、デイサービスやサービス付き高齢者向け住宅と併設し運営しており、ホーム周囲は自然豊かで山や畑に囲まれた静かな場所にある。運営母体は医療法人であり、母体医療機関の医師による毎日の訪問診療や看護師による24時間体制支援、週1回の訪問看護による医療処置を含めたケアなどのほか、緊急時にも医療的ケアを迅速に受けられる体制を整えており、入居者及び家族にとって安心感があるホームとなっている。看取りについても入居時に本人及び家族と話し合い、入居者の終末期にはあらかじめ主治医・看護師・職員・家族が看取りについて話し合うことで本人や家族が望む支援に繋がっている。コロナ禍以前は近隣小学校から運動会の招待状が届けられ入居者が参加したり、散歩の際に地域住民と挨拶を交わしたり会話を楽しんだりするほか、近くの畑で採れた旬の野菜のお裾分けをもらうなど、日頃より地域との繋がりを大切に、ホームや入居者が地域の一員となれるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホームなすな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい所へ理念を掲げ職員皆で共有し必要があれば話し合い実践につなげている。	法人理念をリビングの壁に大きく掲示するとともに、月に1度の職員会議や日々の業務を通して職員同士が互いに注意や助言を行うことで、職員は入居者一人ひとりの意思や人格を尊重しつつ自由に暮らせるよう、理念を共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の運動会など参加出来る時は参加していたが新型コロナウイルス対策で交流できていない。併設のデイサービスの行事ごとなどには参加している。	コロナ禍以前は近くの小学校から運動会への招待があり、入居者と職員が参加し交流していた。また、散歩の際に地域住民と挨拶を交わしたり会話を楽しんだりするほか、近くの畑で採れた旬の野菜のお裾分けをもらうなど、日頃より地域との繋がりを大切に、入居者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に家族に向けて行っているが地域の方から相談があればその都度支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況や取り組みを報告、話し合いを行い意見を頂きサービスの向上、次へのステップアップを目指している。	運営推進会議は2か月に1回、平日に開催している。会議には民生委員や市役所福祉課職員、家族・地域住民代表が参加し、入居者の状況やホームの取り組みについて情報を提示し、改善に向けた意見や提案を得てサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方の参加があり事業所の状況など積極的に伝えている。	管理者は日頃より市役所の福祉課や保護課担当者と電話やメールでのやり取りのほか、直接窓口に行き対話することで入居者やホームの取り組み・実情・困りごと相談などを密に行い、顔の見える協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を行い理念に掲げている様に「自由に安全に生活できる」よう施錠を含め身体拘束をしないケアを心がけている。	ホームでは「なぜ身体拘束を行ってはいけないか」を基本に内部研修を行い、身体拘束をしないケアに日々努めている。事務所に「身体拘束廃止に関する指針」を定めたファイルを設置し、職員の誰もがいつでも読み返しができるように周知することで実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で虐待につながるケアがないよう注意し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在取り組んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得していただけるよう説明している。不安や疑問などはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加していただくことで意見や要望を聞いている。それらの内容を職員と共有することで運営に反映させている。	職員は日頃より食べたい物や行きたい場所について入居者から直接聴き取り、管理者と検討した上で可能な限り実現できるよう支援に取り組んでいる。また、家族からの要望についても面会時や電話・手紙などを通じて把握し、入居者支援や運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会は設けずいつでも管理者は職員の意見や提案を聞き必要に応じて代表者へ伝え運営に反映させている。	入居者支援の方法やホームの運営について、職員は毎月の職員会議や毎日の業務の中で管理者に意見や提案を伝えており、管理者から代表者に伝え検討することでより良い運営となるよう反映している。実際に職員からの意見をもとに新しいシャワーキャリーや車椅子の購入などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課表や管理者からの報告で状況を把握している。また、個々に役割を与え向上心を持って働ける様、環境整備などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修参加表を作成し法人内外問わず参加していたが新型コロナウイルス感染防止の為、現在機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの勉強会などがあれば参加していたが新型コロナウイルス感染防止対策の為、現在、機会が少ない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望を傾聴し安心してサービスを提供出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を傾聴し、また、日頃から状態など伝える事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き必要としているサービスを見極めてその人に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見つけ教え合ったり、励まし合ったりし時にはさりげなくフォローして喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などで現状報告など行い問題等を家族と共有することで共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	屋外へ出ることはほとんどないが併設のデイサービスを近所の方が利用された際は面会したり携帯電話・施設の固定電話の利用も制限せず関係が途切れないう努めている。	ホームでは入居者や家族の意向をもとに、個別に墓や仏壇参り、家に荷物を取りに行く、ホーム近くを散歩するなどの支援に繋げている。また、新型コロナウイルス感染症予防への対策を行いながら県内在住の家族や友人の面会を受け入れるなど、入居者が馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しレクリエーションなどを通して関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実績はないが必要に応じて相談・支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から思いなど聞き把握しているが意思疎通が困難な利用者は表情や行動など観察し把握に努めている。	ホームでは入居者一人ひとりの思いや暮らし方への希望・意向について、入居者本人や家族からアセスメントシートを用いて聴き取ることによって把握するとともに、ケアマネジャーと職員が情報を共有することで本人本位に暮らすことができるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴・環境を詳しく聞き、これまでの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・心身状態等を情報共有し状況変化に応じた対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から意向を聞き本人に何が必要か話し合い介護計画を作成している。家族の要望等変更がある場合は検討し見直している。	入居者本人や家族より意向や希望を聴き取った上で、入居者が望む暮らし方ができるようケアマネジャーや職員が話し合いながら介護計画を作成し、実践に活かしている。また、入居者本位の生活が実現できるよう、支援内容について定期的に評価し改善策の検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践など個別記録に記入し定期的に評価をすることで介護計画を見直している。細かな気づき状態変化も情報共有することで見直しにいかされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関など専門職にアドバイスを受けながら連携を図りその時のニーズに合わせ柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で外出できない為、地域の衣料用品店等に訪問していただき自分で服を選び購入していただくなど楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人なので緊急にもすぐに対応できるよう入所時に説明し主治医を変更していただいている。歯科や皮膚科などはかかりつけの専門医を受診するよう支援している。	ホームには運営母体である医療機関の医師が毎日訪問し、入居者の状態把握に努めている。また、入居以前からのかかりつけ医への受診希望があれば、受診時の送迎や診察の立ち会いのほかに管理者及び家族への報告を行っており、入居者が適切な医療を継続して受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談などし必要に応じて母体の医療法人を受診できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内外を問わず主要の医療機関関係者と連絡をとり入院時等スムーズに情報交換など出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方について事業所で出来る事を説明しそのような状況になった時に医療職を含め関係者と支援に取り組んでいる。	看取りについて、ホームでは入居時に本人と家族へ「重度化による指針」を提示・説明し、同意を得ている。また、主治医より終末期との診断があった際にも再度看取りについて説明し、入居者本人・家族とともに協力しながら支援・治療方針を共有している。ホーム内では職員に対してエンゼルケア研修を行うなど、日頃より看取りについて研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に要請しAEDの使い方など救命救急の勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地震や火災訓練を消防署立会いや自主訓練で行っている。また、近隣の敷地を避難場所として使える様協力をお願いしている。	消防避難訓練は、消防署立ち会いのもとで併設するデイサービスやサービス付き高齢者向け住宅と合同で行っており、災害時の連携も構築している。また、地震などの災害については「防災マニュアル 自然災害対策編」を作成し職員に周知しており、実践的な避難訓練も行っている。更に、地域住民との協力体制も築いており、有事の際の避難先は近くの地域住民代表が経営する店舗の駐車場としている。	避難経路となる通路に空気清浄機があったため、日頃より避難経路を確保できるよう取り組むことが望まれる。また、重度化した入居者を想定した避難訓練の実施や、避難協力者にも入居者の身体状況が分かりやすくなるよう全身写真を入居者一覧に加えるなど、今後の取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重して入浴・排泄時などプライバシーを確保し対応している。また、職員同士気になる言葉使いなどその都度、注意しあっている。	ホームでは女性入居者が排泄する際には女性職員が対応するなど、羞恥心に配慮し支援している。また、入居者と話す際には方言を使用しながらも丁寧な言葉遣いを心掛けるなど、入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーが守られるよう全職員が意識を持って支援に努めている。	外部評価調査時、日中使用しないポータブルトイレをベッド横に設置している居室が見受けられた。入居者本人の使い勝手や動線を考慮した上で、必要に応じて使用しないポータブルトイレへの目隠し等を検討することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人の思いなど聞き出せるよう努め反映させている。家事・活動など可能な限り自己決定して行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人のペースに合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣等が自分で出来る人には自由に選んでいただいている。介助・見守りが必要な人は職員と一緒に選びなどし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で収穫した野菜を使うなどし手作りの食事を提供している。準備や片付けなど本人の出来る事に合わせ手伝っていただいている。	毎日、地元の旬の食材を使用した手づくり料理の提供や、ホーム裏の家庭菜園で採れたブロッコリーやじゃがいもなどを入居者と職員で収穫して食べることで、会話も弾み楽しみながら食事することができている。正月などは行事食もあり、季節感も楽しめるよう配慮している。入居者の中には食事の準備や片付けを希望する方もおり、職員とともに楽しみながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供量及び食事形態は好みや咀嚼状態に応じて個別に配慮している。また水分量など制限がある方は看護師と相談するなどし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が促し自分で出来る方は自分で行っていただき介助が必要な方は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄を把握できるようチェックシートを用いて声掛けを行ったりし出来るだけ失敗なくトイレで排泄していただけるよう支援している。	ホームでは「排泄シート」を作成し、排泄後に職員がチェックし記録に残している。職員は入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、互いに情報共有することで失禁前に声掛けしトイレへ誘導することへと繋げている。それにより排泄の失敗やおムツ使用の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳酸菌などで自然排便できるよう促している。また、定期的に腹部マッサージするなどし便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を心がけ体調や希望に応じて入浴していただいている。入浴出来ない時は清拭を行うなどし支援している。	入浴は週2回以上とし、入浴する曜日は入居者毎に自由に設定することができる。職員は毎日入浴ができるよう湯舟に湯を張り、入居者一人ひとりの気分や体調・希望・タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。本人の体調不良などで入浴できない場合には清拭を行うなど、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転がないよう日中は活動していただき安心できる生活空間作りなど安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴じ職員がいつでも目的・副作用など確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やその他の活動などで役割を作り生き甲斐に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は施設周辺を散歩するなど支援しているが現在、新型コロナウイルス感染防止の為、買い物など出かける支援は行っていないが必要に応じて商店にお願いし訪問で行っている。	職員は入居者とともに日頃よりホーム近くを散歩したり、近くの店に買物に出掛けるなどのほか、本人の自宅へ衣類を取りに行くなど、入居者一人ひとりの希望や要望に応じて家族と検討・連携し、外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は少額の金銭を自己管理していただいているが入居時に家族の同意を得て事業所で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり携帯電話なども制限せず自由に家族など連絡出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機や冷暖房など使用し不快な臭いや湿度や温度を管理している。共同の空間には季節のはなや飾りなど行っている。	ホーム共用空間には空気清浄機を設置し、常に衛生的な空間の保持に努めている。また、窓を開けて空気の入れ替えも定期的に行うなど、新型コロナウイルス感染症への予防策も講じている。リビングには夏祭り時の金魚を水槽で飼育するほか、季節の花を玄関に飾るなど入居者が居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるなどテーブルなどの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していたタンスなど使用して頂き居心地良く生活出来るよう努めている。写真や好きなものを飾るなどプライベートスペースとして居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者が居心地良く過ごせるよう、居室には使い慣れたタンスやテレビ・仏壇・布団や枕などの持ち込みを受け入れており、介護の動線を考慮し配置している。また、愛犬や家族の写真を壁に飾り、いつでも眺め本人が安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活出来る様、随所に手すりを設置するなどし自立した生活ができるよう家具などの配置も工夫している。		